

GAO 通信 第6号

51年1月15日発信 新田 尚

新年おめでとうございます。年が改ってふり返ってみますと、昨年9月から10月にかけて開催された2つの会議、すなわち第2回 WMO 執行委員会 FGGE 政府間パネル (WMO E.C. Inter-governmental Panel on the FGGE) と第11回 GARP 合同組織委員会 (Joint GARP Organizing Committee, JOC) で、FGGE を中心とする現在の GARP の流れおよび準備状況がひとつのしめくくりをなされているように思われます。本通信第3号で「収束していくようだ」と申し上げたように……、本日は、このまとめの結果から書いていきたいと思います。

観測体系 (Observing System)

全体として準備は順調に進んでいるようにみえますが、現在特に力を入れる必要があるのは熱帯赤道地方 (10°N-10°S) と南半球とみられています。熱帯赤道地方の風を中心とする観測網では、観測の要請を強めるかわりに、気象的に活発なゾーンと比較的活発でないゾーンとに分けて、活発なゾーンでは特に観測を強化する方向が採用されました。通常的气象観測船として合計50隻を配置する計画です。

資料処理体系 (Data Management System)

研究用の資料を集めて処理する Level II-b data center の設立が問題の中心となっています。これは観測後1~4カ月かけて完全に近い資料収集をするセンターをつくりたいとするものです。また、すべての研究者に資料が容易にゆきわたるよう配慮が望まれています。

海洋学研究プログラム (Oceanographic Programmes)

海気相互作用の海洋学および気象学に対する重要性から考えて、FGGE 期間中、なるべく両者に有益な資料が入手できるよう、観測船の観測計画などつくってゆこうとしています。

緊急時の処理 (Contingency Planning)

現在計画中の観測体系の一部が予定通りの内容に出来上らなかった場合、時間的に間に合わない場合、あるいは観測中事故が生じた場合に備えて、代替案や対抗策を講じておく必要が認められ、今後、案をかためていくことになりました。

全地球実験本部 (A Board for the Global Experiment)

FGGE とそれに伴う実験の計画、運営、実施の各方面について常にチェックする機関の設置が決められました。これらは全地球実験を中心として検討されていることの一部にすぎませんが、具体的な努力が重ねられていることを読みとって頂ければ幸いです。

さて、サブ・プログラムの方も計画がすすんでいきます。その一部を紹介します。

気候力学サブ・プログラム (The Climate Dynamics Sub-programme)

このサブ・プログラムでは、1カ月から1世紀にわたる時間間隔における、大気-海洋系の変動の研究にとって重要な過程を研究することが確認されました。そして、重点をこれら時間スケールに対する力学モデルの開発におくことになりました。この方向に沿って、気候モデル開発プログラム、パラメタリゼーション研究 (雲分布と放射収支、大気エアロゾル、海水力学、水収支、大気成分稀少気体)、気候学研究のための全地球基礎資料表の作成などを推進していくことになりました。また、力学モデルの開発のために、今秋ヘルシンキで「気候モデルにおける海洋の役割」について研究会議を開く予定がたてられています。

モンスーン・サブ・プログラム (The Monsoon Sub-programme)

昨年12月にジュネーブで第2回 MONEX 専門家会議が開かれ、一応 FGGE 期間中の MONEX 基本案がつくられました。いずれ GARP の刊行物として印刷される予定ですが、これからしばらく、この案の検討が必要です。西アフリカの諸国から西アフリカ・モンスーンの研究を加えるよう提案され、受け入れられましたが、一方、pre-MONEX の活動として Monsoon-'77 実験が提案されていて、2月末頃計画会議が開かれる予定です。

× ×

このようにして計画が煮詰められてくるとともに、実施にむけての検討がはじめられようとしています。2月

"天気" 23, 2.

2日から6日まで、政府間 FGGE 計画会議が (Inter-governmental Planning Meeting for the FGGE) 関係するすべての国の政府代表を集めて開かれますし (パネルは限定されたメンバー国のみ)、9、10日の両日臨時の WMOEC パネルがつづいて開かれ、11、12日の両日 JOC Officers Meeting が開かれます。いずれもジュネーブで開催され、FGGE 実施に関する調整・評価がなされる予定です。GARP の柱が全地球実験なので、そ

れを中心に事が運ばれていますが、併行してサブ・プログラムの会議、各観測体系の技術的検討の会議、など数多く予定されています。いずれ機会を改めて報告するつもりです。なお、昨年11月にパリで4次元資料同化の研究会議が開かれ、技術の現状が検討され、採集展望がなされましたが、その報告の Proceedings が、近く刊行される予定です。ではまた。

学術用語集気象学編訂正のお知らせ

用語委員会

p. 13 hyômen-sino はその下の hyômen-masatsu と上
下入れ替える。

p. 61 および p. 130 Aquisition→Acquisition

p. 131 COSPER→COSPAR

COWER→COWAR 水理委員会→水文委員会

1976年2月

水理研究→水研究 (以上は第1刷のみ)

p. 58 zyurin-nendaigaku は zyumoku-nendaigaku と
して zyun の上に移す。

p. 78 樹林年代学→樹木年代学 zyurin-nendaigaku→
zyumoku-nendaigaku (以上は第1刷及び第2刷)